

一宮町長
馬淵 昌也

先日、一宮川のほとりに立地する特別養護老人ホーム一宮苑さんで、GPS付きライフジャケットを着用しての避難訓練を行うということで、わたくしも一緒にさせていただきました。

ここで用いられたGPS付きライフジャケットは、一宮町が災害時の協定を結んでいる株式会社ニューチュアル・エイド・セオリー代表の有馬朱美さんが、東日本大震災の津波災害の教訓をもとに、開発されたものです。津波や洪水などの災害に襲われたとき、まず水に浮くことで命を確保し、またその居場所をGPSで知らせることに、捜索隊などが確実に速やかに位置を把握し、的確に救助を行えるようにするためのものです。

有馬さんは、このGPS付きライフジャケットの実用化に向けて、新潟県糸魚川市、宮城県南三陸町、長野県木村と並んで、一宮町でも試験運用を行いたいとのことでした。特に、浸水被害の可能性のある地域における高齢者施設を望まれましたので、町から一宮苑の皆さまにご協力のご依頼を差し上げたところ、ご快諾いただき、実施に当たったものです。

当日は、一宮苑のスタッフの方に、

まずライフジャケットを着用していただきました。これはほぼ10秒足らずで済みました。その後、車椅子をお使いのご入所者さまにご協力をいただき、ライフジャケットを装着して、一階ホールから階段で避難場所の二階へ上がるのに、どれくらい時間がかかり、どういった課題が見つかるかを試しました。車椅子ですと、4人のスタッフが必要で、やや時間がかかりますが、おんぶなら2人で約2分で行けることなど、改めて確認できました。ライフジャケットは丈が短い方が車椅子には適していること、おんぶをするとき、つかむための紐がついているとよいなど、色々な発見がありました。

有馬さんは、このライフジャケットを1ヶ月の間一宮苑で使ってもらい、色々な条件下での使い勝手を確かめてほしいとのことでした。

町では、海岸や一宮川の近くの津波・洪水の可能性のある地域にも、大勢の方々がお住まいです。このGPS付きライフジャケットは、そうした地域の方々の命をお守りするのに、大いに役立つと思います。早く各地域での試験運用が終了し、本格的な実用段階に進むことを期待したいと思います。